

訓練計画説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

全般

○訓練計画【資料】

- ・ 中期計画上の今年度訓練の位置付け
- ・ 今年度の訓練目的, 達成目標
- ・ 主な検証項目
- ・ 実施・評価体制
- ・ 訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合）及び評価基準
- ・ 訓練シナリオ
 - －プラント運転状態, 事象想定, スキップの有無等
 - －現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針
- ・ その他
 - －ERSS/SPDSの使用
 - －COP様式
 - －即応センター, 緊急所レイアウト図
 - －ERC対応ブース配席図, 役割分担
 - －ERC書架内の資料整備状況（資料一覧）

○評価指標のうち, 主に[P], [D]に関する内容【資料】

⇒詳細は以下参照

○事業者とERCの訓練コントローラ間の調整

⇒詳細は以下参照

注意:

- ・ 【資料】となっているものは面談資料として提示頂くもの（訓練シナリオ（非提示型の場合）, 個人名, 連絡先など, 必要な箇所のマスキング処理を確認する。）
- ・ COP:共通状況図のこと。事故・プラントの状況, 進展予測と事故収束対応戦略, 戦略の進捗状況について認識の共有のために作成される図表であって, 各社で様式や名称は異なる。

➤ **全般** 別紙1-1 ~ 別紙1-4を参照

○2020年度 防災訓練実施計画書

- －即応センターレイアウト図, 発電所緊急時対策所レイアウト図
- －ERC対応ブース配席図, 役割分担

○2020年度 志賀原子力発電所 訓練シナリオ

○COP様式

○ERC書架内の資料整備状況（資料一覧）

指標1：情報共有のための情報フロー

- 発電所、本店（即応センター）、ERCの3拠点間の情報フローを確認する
 - ・情報フローとは、次の5つの情報
 - －①EALに関する情報
 - －指標2に示す情報（②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況）
 - －⑤ERCプラント班からの質問への回答について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのように、の観点からみた、情報伝達の一連の流れをいう。
- 情報フローにおいて、前回訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を確認する
 - ①前回訓練で情報フローに問題がある場合
 - ・前回訓練での情報共有における問題が発生した事業者は、問題に対する課題の抽出、原因分析及び対策を確認する。
 - ・その上で、情報フローが対策を反映したものとなっているか確認する。
 - ②前回訓練で情報フローに問題がない場合
 - ・情報フローに対し、更なる改善点が無いか検証した結果を確認する。

➤ 指標1 別紙2を参照

○情報共有のための情報フロー

前回訓練の訓練課題に対する原因を分析した結果、即応センターのERC対応ブースのインフラ（ディスプレイ、パソコン）に係る改善点が抽出されたものの情報フローに反映すべき改善点は無かった。また、他社の情報フローを調査し、自社に反映すべき事項が無いか確認したが、反映すべき事項は無かった。

指標2：ERCプラント班との情報共有

- ERC対応ブース発話者の育成・多重化の考え方を確認する
- 訓練当日、ERC対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否（否の場合は、その理由）を確認する

➤ 指標2 説明

○ERC対応ブース発話者の育成・多重化

- ・ERC対応ブースの要員（メインスピーカー、サブスピーカー及び仕切り役）は、昨年度から引き続き、自社及び他社の訓練DVD視聴や図上訓練により更なる習熟を図っている。
- ・サブスピーカーに昨年度対応していない要員を選定し、次年度以降のメインスピーカー候補者になれるよう育成している。
- ・3社アライアンスの枠組みを通じ、模擬ERC役を各社から相互に派遣して訓練を行うことにより3社のノウハウを共有・スパイラルアップを図っている。ま

た、当社は模擬ERC役にメインスピーカーを派遣し、ERC側の立場・役割の理解を深めることにも努めている。

○訓練当日のERC対応ブース発話者選定

- ・メインスピーカーと仕切り役をくじ引き等により選定する。

指標3：情報共有のためのツール等の活用

3-1 プラント情報表示システムの使用

- 使用するプラント情報表示システムを確認する（実発災時とシステムの差異も確認する）

3-2 リエゾンの活動

- 事業者が定めるリエゾンの役割を確認する

3-3 COPの活用

- COPの作成・更新のタイミング、頻度を確認する

3-4 ERC備付け資料の活用

- ERC備付け資料の更新状況を確認する

➤ **指標3-1** 説明

○発電所－即応センター間のプラント情報表示システム

2号訓練シミュレータと連動した訓練であり、発電所及び即応センターにはシミュレータの任意の画面を閲覧することが出来るパソコン端末（以下「模擬SPDS表示端末」という。）があるため、SPDSとほぼ同等の情報量が得られる。

○即応センター－ERC間のプラント情報表示システム

模擬SPDS表示端末を以下の2つの方法にてERCに表示可能である。

- ・統合原子力防災NWのTV会議システムを通じて、即応センターの模擬SPDS表示端末の画面を伝送表示する。
- ・2号訓練シミュレータ室の模擬SPDS表示端末の画面をERCに持ち込むパソコン端末へインターネットを介して伝送表示する（ERCの大型ディスプレイに当該パソコン端末を繋ぎ表示）。

○実発災時は以下のプラント情報表示システムを使用

発電所－即応センター間：SPDS

即応センター－ERC間：ERSS

➤ **指標3-2** 説明

○リエゾン活動内容は、以下のとおりとする。

- ・即応センターの補助
 - －ERC内へ補足説明
 - －ERC内の質問対応
 - －ERC内情報の即応センターへの提供
（TV画面の書画画像が見つらい、声が小さい、今の話はERC内では納得されていない、国側の広報活動状況等）
- ・資料の印刷・配布・配布履歴管理

➤ **指標3-3** 説明

○COPは、プラント状態が変化する都度（EAL判断のタイミングなど）の作成及び更新を基本とする。

COPの種類	作成	更新
志賀原子力発電所1号機 DEC管理表 (1u-COP①)	体制確立から 10分目途(初回)	・プラント状態 変化の都度
志賀原子力発電所1号機 設備状況シート (1u-COP②)	25分目途(初回情 報の更新)	・定期15分毎
志賀原子力発電所2号機 DEC管理表 (2u-COP①)	体制確立から 10分目途(初回)	・プラント状態 変化の都度
志賀原子力発電所2号機 設備状況シート (2u-COP②)	25分目途(初回情 報の更新)	・定期15分毎
志賀原子力発電所 構内概況シート (2u1u-COP③)	現場確認指示から 30分以内	可搬型設備準備 状況が変化する 都度
志賀1号機 EAL早見表 (1u-COP④)	EAL判断後直ち に	EAL判断後直 ちに
志賀2号機 EAL早見表 (2u-COP④)	EAL判断後直ち に	EAL判断後直 ちに
戦略検討 (2u-COP⑤) (2u1u-COP⑤)	体制確立から 10分目途(初回) 25分目途(初回情 報の更新)	・戦略が変更, 進捗する都度 ・定期30分毎
プラント予測 (2u1u-COP⑥)	進展予測が必要な 事象発生から 5分以内(簡易) 1時間以内(精度向 上版)	新規の解析結果 ができる都度

➤ **指標3-4**

○ERC備付資料の更新状況確認

- ・原子力事業者防災業務計画のEAL判断基準改訂に伴う改訂
- ・運転操作手順改訂に伴う改訂
- ・記載の適正化

指標4：確実な通報・連絡の実施

(①通報文の正確性)

- 通報FAX送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応を確認する
- 発出したEALが非該当となった場合の対応を確認する
- 通報に使用する通信機器の代替手段を確認する

(②EAL判断根拠の説明)

- EAL判断根拠の説明方法（情報の入手や説明資料など）を確認する

(③10条確認会議等の対応)

- 10条確認会議、15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名を確認する

(④第25条報告)

- 25条報告の発出タイミングの考え方を確認する
- 訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング、報告内容（発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し/状況、モニタ・気象情報など）、回数（訓練シナリオ中の記載されているか）を確認する

➤ **指標4-① 説明**

- 通報文のチェック体制、誤記等の対応
 - ・発電所情報班で通報文を作成後、情報班長が記載内容チェックを実施する。
 - ・通報文に誤りがあった場合は、当該通報文を見え消しにて修正し、再度通報連絡を実施する。
- EAL非該当となった場合の対応
25条報告様式を用い、該当EALの非該当を連絡する。また、非該当となったEALが再度該当となった場合には、10条通報様式で再度通報連絡する。
- 通報に使用する通信機器の代替手段
通常はNTT回線によるFAX送信を実施するが、これが使用できない場合は代替手段として統合原子力防災NWのIP-FAX（地上・衛星）を使用する。

シナリオ情報を含むため非開示

➤ **指標4-② 説明**

- ERC備付け資料で用意するEAL判断フローを用いて説明

➤ **指標4-③ 説明**

- 対応予定者：原子力本部総本部原子力班長

個人情報を含むため非開示

➤ **指標4-④ 説明**

シナリオ情報を含むため非開示

指標 5：前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

- 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることを確認する
- 訓練時における当該改善策の有効性の評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）を確認する
- 課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他発電所の訓練で対応している場合は、その検証結果を確認する
- 今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況を確認する。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことを確認する

➤ **指標 5** 別紙 3 を参照

- 前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

指標6：シナリオの多様化・難度

- 訓練シナリオのアピールポイントを確認する
- シナリオ多様化に関し、付与する場面設定を確認する
- 訓練プレーヤへ難度の高い課題をどのように与えているかを確認する

例)

- ・時間：要員が少ない時間帯
- ・場所：対応が困難となる場所
- ・気象：通常訓練で想定しない天候や組み合わせなど
- ・体制：キーとなる要員の欠員
- ・資機材：手順外の資機材の活用
- ・計器故障：EAL判断計器または重要計器故障，これに伴う代替パラメータでの確認
- ・人為的ミス：操作や報告のミス
- ・OFC対応：要員派遣に加え，オンサイトと連携した活動
- ・判断分岐：マルチエンディング，途中の判断分岐など
- ・その他：複数の汚染傷病者

➤ 指標6 説明

シナリオ情報を含むため非開示

指標7：現場実動訓練の実施

- 現場実動訓練の実施内容を確認する
- 事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携を確認する
- 他原子力事業者評価者の受け入れ予定を確認する

➤ 指標7 説明

- 2020年10月28日に消防車による1号使用済燃料貯蔵プールへの注水訓練を実施した。
- 本訓練では、事故シナリオと連動して発電所緊急時対策本部（50名規模）が戦略の検討・消防車による1号使用済燃料貯蔵プールへの注水の指示等を実施した。
- 訓練状況を撮影し、他原子力事業者による評価（DVD）を実施した。

指標8：広報活動

- 評価要素①～⑤それぞれについて、対応、参加等の予定を確認する

➤ 指標8 説明

- ① ERC広報班と連動したプレス対応
ERC広報班リエゾンを1名派遣し、ERC広報班殿と連動したプレス対応を実施する。
- ② 記者等の社外プレーヤの参加
模擬記者として一般社団法人日本電気協会新聞部の記者が参加する。
- ③ 他原子力事業者広報班担当の社外プレーヤの参加
模擬記者として東京電力HD株式会社の広報担当が参加する。
- ④ 模擬記者会見の実施
 - ・模擬記者会見を実施する。
 - ・記者会見時の説明者は原子力部門の責任ある立場の者が実施する。
- ⑤ 情報発信ツールを使った外部への情報発信
北陸電力プレスリリースの模擬ホームページを作成する。

指標 9：後方支援活動

- 評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲を明確にすること）を確認する
- 一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせて一連の後方支援活動の訓練を実施する場合はその内容を確認する

➤ 指標 9 説明

- ① 原子力事業者間の支援活動
 - ・原子力事業者間協力協定に基づく支援要請（実連絡）を実施する。
 - ・東京電力HD株式会社及び中部電力株式会社の技術者を当社に派遣頂く。
- ② 原子力事業者災害対策支援拠点との連動（一部要素訓練）
 - ・原子力事業所災害対策支援拠点（七尾大田火力発電所運動公園）を設置し、通信機器を用いて即応センターと連携する。
 - －設営訓練（2021年1月21日）
- ③ 原子力緊急事態支援組織との連動
 - ・即応センターから原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請（実連絡）を実施する。
 - ・美浜原子力緊急事態支援センターのロボット2台を使用して、発電所内での実操作訓練（階段移動、走行、カメラ監視）を実施する。

指標10：訓練への視察など

(①他原子力事業者への視察)

○他事業者への視察実績、視察計画を確認する

(②自社訓練の視察受け入れ)

○自社訓練の視察受け入れ計画（即応C、緊対所それぞれの視察受け入れ可能人数、募集締め切り日、募集担当者の氏名・連絡先）を確認する

(③ピアレビュー等の受け入れ)

○ピアレビュー等の受け入れ計画（受け入れ者の属性、レビュー内容等）を確認する

(④他原子力事業者の現場実動訓練への視察)

○視察又は評価者としての参加の実績、予定を確認する

➤ 指標10 説明

① 他原子力事業者への視察実績及び視察計画

・以下の事業者訓練（発電所、即応センター）の視察（DVD視聴若しくは統合防災NWテレビ会議システムによるERC訓練視聴）を実施または実施予定である。

- －福島第一・第二原子力発電所（2020年9月11日）
- －大飯原子力発電所（2020年10月16日）
- －東通原子力発電所（2020年10月23日）
- －島根原子力発電所（2020年11月20日）
- －浜岡原子力発電所（2021年3月1日）（予定）
- －柏崎刈羽原子力発電所（2021年3月12日）（予定）

② 自社訓練の視察受け入れ計画

・DVD視聴をもって自社訓練の視察受け入れとする。

③ ピアレビュー等の受け入れ計画

・東京電力HD株式会社及び中部電力株式会社により発電所及び即応センターの活動を評価頂く。なお、発電所についてはDVD視聴による評価とする。

- －即応センター：東京電力HD株式会社 1名
中部電力株式会社 1名

④ 他原子力事業者の現場実動訓練の視察（DVD視聴）の実績、予定

- ・女川原子力発電所 事業者防災訓練（2020年10月16日）
- ・福島第一原子力発電所 要素訓練（指標7）（2020年10月26日）
- ・東通原子力発電所 要素訓練（指標7）（2020年11月25日）
- ・浜岡原子力発電所 要素訓練（指標7）（2020年12月1日）
- ・福島第二原子力発電所 要素訓練（指標7）（2020年12月11日）
- ・東海第二原子力発電所 要素訓練（指標7）（2020年12月25日）（予定）

指標11：訓練結果の自己評価・分析

—

備考：訓練参加率

- 発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）を確認する
- 即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）を確認する
- リエゾン予定人数を確認する
- 評価者予定人数を確認する

➤ **備考 説明**

- 発電所参加予定人数 約140名（うち、コントローラ・評価者 約20名）
- 本店参加予定人数 約110名（うち、コントローラ・評価者 約20名）
- リエゾン予定人数
 - ・プラント班リエゾン 3名
 - ・広報班リエゾン 1名
 - ・事務局 1名（模擬SPDS画面操作）

備考：中期計画の見直し

- 見直し状況、見直し内容、今年度訓練実施計画の位置づけを確認する
- 見直し後の中期計画を確認する
- 前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練まで対応実績・スケジュール（作業フローなど）について、以下のPDCAの観点で概要を確認する
 - 【観点】前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた[C]及び[A]、中期計画及び原子力防災業務計画への反映[P]の時期
 - [C] 訓練報告書のとりまとめ時期
 - [A] 対策を講じる時期
 - －具体的な対策の検討、マニュアル等へ反映、周知・教育/訓練など（昨年度の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容、スケジュールがわかるように記載すること
 - －原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期（定期見直し含む）
 - [P] 中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期
- 前回訓練実施後の面談時に確認したPDCA計画を確認する

➤ **備考** 別紙4

- 2020年度の具体的な訓練対応スケジュール

備考：シナリオ非開示型訓練の実施状況

- 開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に/何を開示するのか具体的に記載）及びその設定理由を確認する

➤ **備考** 説明

- コントローラ以外はシナリオ非開示とする。

事業者とERCの訓練コントローラ間の調整事項

- ERC広報班との連動の有無
- TV会議接続先（即応C，OFC，緊対所）
- リエゾンの人数（プラント・広報），入館時刻，訓練参加タイミング
- 訓練終了のタイミング，その後の振り返りの要否
- ERSS使用に係る当庁情報システム室との調整状況
- 事前通信確認実施の要否
- 即応Cコントローラの所属，氏名，連絡先
- ERC対応者の職位，氏名
- 訓練時，メールを利用したERCプラント班への資料提供の実施の有無

▶ **コントローラ間調整** 説明

- ERC広報班との連動の有無
連動を希望する。
- TV会議接続先（即応C，OFC，緊対所）
 - ・通常の接続先：「北陸 志賀即応C1」「北陸 志賀即応C2」
 - ・傍聴（非表示）接続：「北陸 志賀増設緊対所」「北陸 金沢即応C」「志賀OFC」
- リエゾンの人数（プラント・広報），入館時刻，訓練参加タイミング
 - ・リエゾンの人数：5名（プラント班対応3名，広報班対応1名及び事務局1名）
 - ・入館時刻：12時40分
 - ・訓練参加タイミング：13時40分（起因事象発生から30分後）
- 訓練終了のタイミング，その後の振り返りの要否
訓練の進捗に合わせ，事前にERCコントローラと調整を行い，即応センターコントローラより訓練終了の発話を行い，その後振り返りを実施する。
- ERSS使用に係る当庁情報システム室との調整状況
不要である。
- 事前通信確認実施の要否
実施を希望する（日程調整は別途）。
- 即応Cコントローラの所属，氏名，連絡先
別紙5参照。
- ERC対応者の職位，氏名
別紙5参照。
- 訓練時，メールを利用したERCプラント班への資料提供の実施の有無
予定なし。

以上

別紙資料

		指標との紐づけ													
		全般	指標1 情報フロー	指標2 情報共有	指標3 ツール	指標4 通報	指標5 課題検証	指標6 シナリオ	指標7 取組実動	指標8 広報	指標9 広報支援	指標10 視察	備考 参加率	備考 中長期	備考 非開示
別紙1-1	2020年度 防災訓練実施計画書	○													
添付資料1	訓練項目表	○													
添付資料2	発電所増設緊急時対策所レイアウト図	○													
添付資料3	問応センターレイアウト図	○													
添付資料4	ERC対応ブース 配席図	○													
添付資料5	ERC対応ブース 役割分担	○													
別紙1-2	2020年度 志賀原子力発電所 防災訓練シナリオ (2021年度1月22日)	○													
別紙1-3	志賀原子力発電所 COP様式一覧	○													
別紙1-4	ERC書架内の資料整備状況	○													
別紙2	情報共有のための情報フロー		○												
別紙3	前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定					○									
別紙4	2020年度の具体的なスケジュール													○	
別紙5	志賀原子力発電所防災訓練 (2021年1月22日) 関係名簿														
参考	志賀原子力発電所防災訓練における新型コロナウイルス感染症対策について														

2020 年度 防災訓練実施計画書

1. 訓練目的

(1) 訓練目的設定の考え方

a. 発電所

今年度実施する防災訓練の目的は、以下の3点を考慮して設定するものとする。

(a) 原子力防災訓練中期計画における今年度訓練の位置付け

志賀原子力発電所で定める中長期計画においては、「あらゆる状況下において、必達事項を迅速かつ確実に実施できること」を組織の最終到達目標として設定し、以下のとおり年度毎に組織としての到達目標を計画している。

年度	組織の到達目標
2013 ～2017	<ul style="list-style-type: none"> 平日昼間帯の単独被災（運転号機）又は複数号機被災時に、確実な対応ができること 夜間帯又は休日昼間の単独被災時（運転号機）に、最低限必要な対応ができること
2018 ～2019	<ul style="list-style-type: none"> 「夜間帯又は休日昼間の単独被災（運転号機）」又は「複数号機発災時」に、確実な対応ができること 上記の対応において、訓練で模擬又はスキップ（省略）した活動（ブルーム放出前の退避、外部からの支援等）の実効性を検証の上、要改善事項の洗い出し、対応能力向上が図れること
2020	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応に必要な最低人数の精査（新型コロナウイルス COVID-19 感染防止対策及び2交替体制を見据えた要員の適正配置） 本部・各機能班の緊急時対応マニュアルの精査（新規制定又は適正化・改訂） 力量教育・認定の仕組み検討，構築準備
2021	<ul style="list-style-type: none"> 2交替体制で事故対応が可能 緊急時対応マニュアルを活用しての事故対応が可能（改善点の抽出・改善） 力量教育・認定の運用試行
2022	<ul style="list-style-type: none"> 多様な訓練シナリオでの対応検証

⇒上記のとおり、今年度の到達目標として定めている「緊急時対応に必要な最低人数の精査」、「緊急時対応マニュアルの精査」を行った結果について訓練の中で検証することを訓練の目的として設定する（今年度訓練の目的①）。

(b) 昨年度訓練の改善対応

昨年度実施した訓練において抽出された以下の課題に対する改善点について検証することを目的として設定する（今年度訓練の目的②）。

《2019 年度事業者防災訓練における課題》

通報文の記載において、以下のとおり一部必要情報を把握しづらい箇所があった。

○原災法第10条通報様式の「その他特定事象の把握に参考となる情報」欄には、「別紙参照」と記載し、別紙にて事象発生以降の全ての時系列情報に新たな情報を追記する形で記載していたが、必要情報が把握しづら

かった。また、本紙と別紙の2枚でFAX送受信するため、速達性の観点から改善の余地があった。

- 原災法第25条報告様式の「発生事象と対応の概要」欄は、前回報告事項や第10条事象発生以前の情報が全て列記されており、必要情報を把握しづらかった。
- 応急措置の報告に時間を要していると捉えられる場面があった。

(c) 感染症対策下における本部運営

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて実施した対策（密接の防止など）により、原子力災害対応に必要な社内外への情報共有が従来よりも難しくなることが想定されことから、対策を行ったうえでも円滑な本部運営ができるか検証することを目的とする（今年度訓練の目的③）。

b. 原子力部（本店）

今年度実施する防災訓練の目的は、以下の3点を考慮して設定するものとする。

(a) 原子力防災訓練中期計画における今年度訓練の位置付け

原子力部で定める中長期計画においては、災害対策組織の緊急時対応能力を継続的・計画的に向上させることを目的とし、「少人数体制の構築」「立地の離れた拠点間の連携機能強化」目標として設定した上で、以下のとおり年度毎に組織としての到達目標を計画している。

年度	組織の到達目標
2020	・少人数体制の構築（各Grの要員を1割削減した状態で訓練を実施） ・発電所の活動を阻害することなく、立地の離れた原子力本部（志賀町）と本店（富山市）が連携できる運用の整備
2021	・少人数体制の構築（各Grの要員を2割削減した状態で訓練を実施） ・立地の離れた原子力本部（志賀町）と本店（富山市）の連携機能強化に係るインフラの整備
2022	・少人数体制の構築（各Grの要員を4割削減した状態で訓練を実施） ・立地の離れた原子力本部（志賀町）と本店（富山市）との間で各機能班からの適切な間隔での報告と総本部長（社長）による意思決定の実施

⇒上記のとおり、今年度の到達目標を定め、訓練の中で以下を検証することを訓練の目的として設定する。

- ・少人数体制（1割削減）で定められた活動（あるべき姿）を漏れなく実施できること（今年度訓練の目的④）。
- ・立地の離れた原子力本部（志賀町）と本店（富山市）との間で各機能班は総本部長（社長）へブリーフィングで情報連絡ができること（今年度訓練の目的⑤）。

(b) 昨年度訓練の改善対応

昨年度実施した訓練において抽出された以下の課題に対する改善点について検証することを目的として設定する（今年度訓練の目的⑥）。

《2019年度事業者防災訓練における課題》

- 戦略に係る一部のプラント操作において、操作の予告や実施状況を適切なタイミングでERCプラント班に情報共有できないときがあった。

(c) 感染症対策下における原子力本部運営

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて実施した対策（密接の防止など）により、原子力災害対応に必要な社内外への情報共有が従来よりも難しくなることが想定されることから、対策を行ったうえでも円滑な本部運営ができるか検証することを目的とする（今年度訓練の目的⑦）。

(2) 訓練目的

本訓練は以下に示す点を主眼に置いた訓練を実施することで、対応要員の習熟を図ることを目的とする。

実施箇所	訓練目的
発電所	<p>①各機能班において精査した「緊急時対応に必要な最低人数」での対応を行い※、各班が緊急時対応マニュアルで定める必須事項を漏れなく実施できることを検証</p> <p>※：本来であれば、事象発生後の長期対応に備え対応要員を減らしていくものであるが、本訓練では新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、序盤から最低人数しか参集できなかった想定として訓練を実施する。</p> <p>②1, 2号同時発災下においても作成した通報文が必要情報の把握、速達性の観点で適切な記載となっていることの検証 また、原災法 25 条報告を必要なタイミングで遅滞なく作成・発信できることを検証</p> <p>③新型コロナウイルス感染防止対策を行った状態においても、本部運営及び社内外の情報共有が支障なく実施できることを検証</p>
原子力部 (本店)	<p>④少人数体制（1割削減）で定められた活動（あるべき姿）を漏れなく実施できることを検証</p> <p>⑤立地の離れた原子力本部（志賀町）と本店（富山市）との間で各機能班が総本部長（社長）へブリーフィングで情報連絡をできることを検証</p> <p>⑥ERCへの説明時において、事前に見込まれる戦略について、適宜、各施策をバランスよく説明できること、及びSPDS画面（訓練時はシミュレータ画面）で主要パラメータが急変した場合は考えられる原因を速やかに説明するとともに、正確な原因を入手・整理した後、再度説明できることを検証</p> <p>⑦新型コロナウイルス感染防止対策を行った状態においても、原子力部本部運営及び社内外の情報共有が支障なく実施できることを検証</p>

2. 実施日時

【総合訓練】

2021年1月22日（金）13:10～16:30

【要素訓練】

2020年10月28日（水）13:30～16:00[現場実動訓練]
（9月17日計画書説明済み）

【要素訓練（原子力事業所災害対策支援拠点訓練）】

2021年1月21日（木）10:00～16:00

3. 想定事象

- (1) プラント運転状態
1号機：長期停止中（炉心に燃料なし）
2号機：定格電気出力一定運転中
- (2) 事象想定
平日の早朝（定時外）に原子力災害が発生（原子力災害対策特別措置法第15条に進展）
- (3) スキップの有無等
事象の早回し，事象のスキップは実施せず
- (4) SPDSの使用
 - 発電所－即応センター間のプラント情報表示システム
 - ・訓練シミュレータと連動した訓練を実施するため，訓練シミュレータから出力したプラントパラメータを訓練で使用
 - ・また，訓練シミュレータ表示端末により，訓練シミュレータのパラメータを閲覧することが可能
 - 即応センター－ERC間のプラント情報表示システム
訓練シミュレータの画面にて以下の2つの方法で表示可能
 - ①統合原子力防災ネットワークのTV会議システムにより即応センターERC対応者からERCへ表示
 - ②原子力規制庁から当社ERCリエゾンへ要求があれば，随時，訓練シミュレータ表示端末を操作し，ディスプレイへ表示

4. 訓練項目

【発電所】

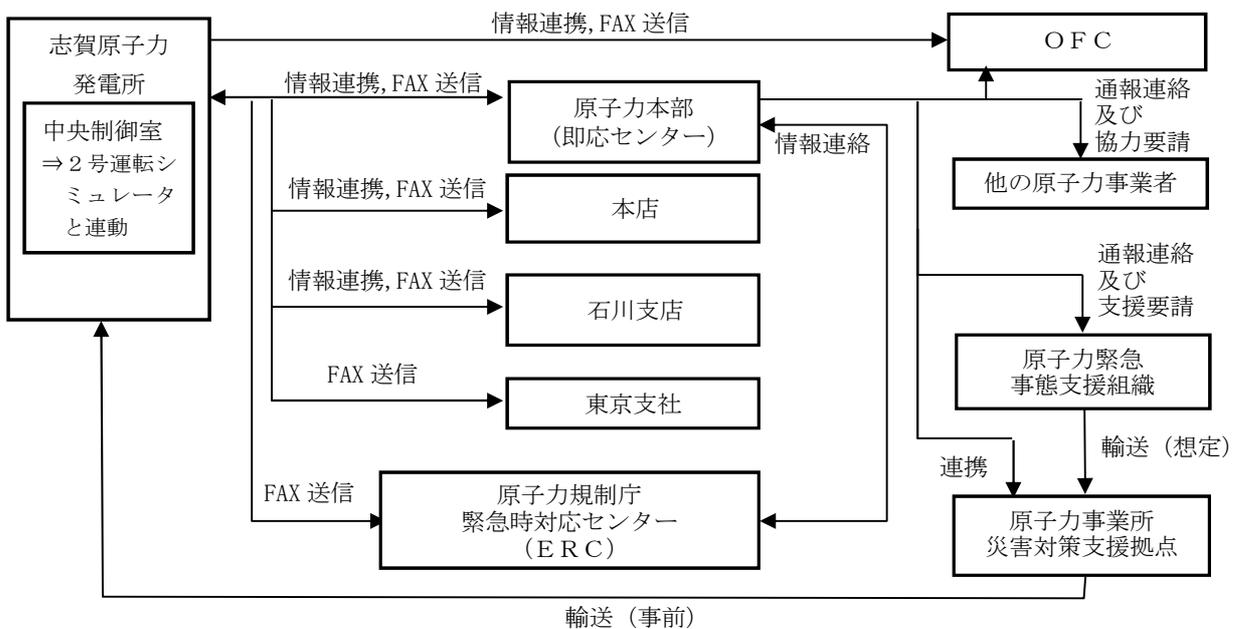
訓練項目	訓練概要	備考
緊急時演習（総合訓練）	添付資料 1 参照	—
アクシデントマネジメント訓練		
通報訓練		
原子力災害医療訓練		
緊急時環境放射線モニタリング訓練		
避難誘導訓練		
その他必要と認める訓練		
遠隔操作ロボットの操作訓練		
オフサイトセンター要員派遣訓練		

【原子力部（本店）】

訓練項目	訓練概要	備考
緊急時演習（総合訓練）	添付資料 1 参照	—
その他必要と認める訓練		—
原子力事業所災害対策支援拠点訓練		一部要素訓練
原子力緊急事態支援組織連携訓練		—
記者会見対応訓練		—
原子力事業者支援連携訓練		—
オフサイトセンター連携訓練		—

5. 訓練内容

(1) 実施体制



(2) 発電所増設緊急時対策所のレイアウト図は添付資料 2 参照

(3) 即応センターのレイアウト図は添付資料 3 参照

- (4) 即応センター内E R C対応ブースの配席図は添付資料 4 参照
- (5) E R C対応ブースの役割分担は添付資料 5 参照

6. 評価方法

【発電所】

- (1) 訓練観察による評価
観察シートを用いて訓練観察を実施し，訓練後に活動を評価
- (2) 第三者による評価
訓練を録画した映像・音声データを基に他の原子力事業者が評価シートを用いて評価
- (3) 反省会
訓練参加者及び訓練事務局にて反省会を実施し，改善事項を抽出

【原子力部（本店）】

- (1) 訓練観察による評価
 - ・訓練中に観察者が訓練観察シートを用いて評価
 - ・訓練後に，観察結果から課題を抽出
- (2) 第三者による評価
 - ・訓練中に他の原子力事業者が訓練観察シートを用いて評価
(新型コロナウイルス感染防止のため，訓練を録画した映像・音声データを基にした観察への変更も考慮)
 - ・訓練後に，観察結果から課題を抽出
- (3) 反省会
 - ・訓練後に訓練事務局を含めた訓練参加者による全体の反省会及び機能班（ないし機能G r）毎の反省会を実施し，課題を抽出
 - ・他電力の評価者と意見交換会を実施し，課題を抽出

以 上

1. 発電所各訓練項目の内容

訓練項目	訓練内容	達成目標	主たる検証項目	備考
緊急時演習（総合訓練）	○連絡当番による初動対応 ○段階的な要員参集後の本部運営	○連絡当番体制から要員参集後の本部体制への移行（指揮引継・情報共有）が円滑になされ、緊急時対応が支障なく継続できること	・宿直者による連絡当番体制から要員参集後の本部体制への移行（指揮引継・情報共有）に係る対応ができることを確認する。	訓練目的①③
	○EAL判断，体制発令	○本部長は，EAL該当を判断（該当根拠の確認含む）し，体制発令ができること。	・EAL判断（該当根拠の確認含む）・防災体制発令が適切に実施されることを確認する。 ・情報班にてCOP④が遅滞なく作成（EAL判断後直ちに）・更新（EAL判断後直ちに）できていることを確認する。	
	○情報共有ツールを活用した全体情報共有	○情報共有ツール（COP，情報共有システム等）を活用し，全体で情報共有ができること。	・プラント状況・対応戦略がCOPを用いて全体共有されることを確認する。 ・情報共有システムにより各機能班の活動が把握できることを確認する。	
アクシデント マネジメント訓練	○プラント状況の把握，今後の事象進展予測	○プラントパラメータ及び訓練事務局から付与される情報に基づき，プラント状況を的確に把握するとともに，今後の事象進展予測が実施できること。	・運転訓練シミュレータから伝送されるプラントパラメータ及び訓練事務局から付与される情報に基づき，プラント挙動（原子炉，格納容器，SFP等）を分析し，事象進展予測ができることを確認する。 ・技術班にてCOP⑥を遅滞なく作成（進展予測が必要な事象発生から5分以内（簡易），1時間（精度向上版））・更新（新規解析の完了の都度）できていることを確認する。	訓練目的①③
	○事故拡大防止対策に係る検討（COPにより現状整理及び目標設定・対応戦略の提示）	○進展が早い事象での事故拡大防止対策に係る検討ができること（COPにより現状整理及び目標設定・対応戦略を提示できること）。	・技術班にてCOP①②が遅滞なく作成（体制確立から10分目途）・更新（プラント状況変化の都度，定期15分毎）できていることを確認する。 ・緊急時即応班にてCOP③が遅滞なく作成（現場確認指示から30分以内）・更新（可搬型設備の準備状況進捗の都度）できていることを確認する。 ・技術班にてCOP⑤を遅滞なく作成（体制確立から10分目途）・更新（戦略が変更，進捗する都度，定期30分毎）できていることを確認する。	

訓練項目	訓練内容	達成目標	主たる検証項目	備考
通報訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○通報文の作成，状況に応じた通信手段（代替通信手段含む）を用いた通報連絡（FAX送信及び着信確認） ○EAL非該当となった場合，原災法第25条報告 	<ul style="list-style-type: none"> ○原災法第10条，第15条該当判断から15分以内に通報文の作成，関係箇所への通報連絡が実施できること。 ○EAL非該当となった場合に上記と同様の連絡ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15分以内に通報連絡が実施できることを確認する。 ・情報班にてFAX送信・着信確認が管理され，記録が作成されることを確認する。 ・昨年度訓練の課題が改善されていることを以下のとおり確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢原災法第10条通報様式には，発生した特定事象の判断根拠となる情報（必要情報）のみ記載し，極力1枚の通報文にまとめて通報していることを確認する。 ➢原災法第25条報告様式には，新規の報告内容のみ記載していることを確認する。 ➢原災法第25条報告様式を用いた応急措置の報告は，発電所本部で戦略立案，準備開始，準備完了の情報が共有されてから30分以内を目途に行われていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練目的② ・通報箇所は限定（一部は模擬）
原子力災害医療訓練	○発生現場から緊急処置室への傷病者の搬送，汚染検査，応急処置，管理区域からの搬出準備	○社内規定に定める手順どおりに管理区域内での傷病者発生時の一連の対応（傷病者の階段搬送含む）が確実に実施できること。	・社内規定に定める手順どおりに傷病者の搬送（階段使用），汚染検査，応急処置，管理区域からの搬出準備が実施できることを確認する。	
緊急時環境放射線モニタリング訓練	○モニタリングカー設置，測定	○社内規定に定める手順どおりにモニタリングカーを設置し，所内モニタリングが実施できること。	・社内規定に定める手順どおりにモニタリングカーを用いて，適切に所内モニタリングが実施できることを確認する。	
避難誘導訓練	○避難者への避難指示，避難誘導	シナリオ情報を含むため非開示	シナリオ情報を含むため非開示	
その他必要と認める訓練				
遠隔操作ロボットの操作訓練	○遠隔操作ロボットの現場操作	○原子炉建屋（非管理区域）にて遠隔操作ロボットの基本動作（走行，階段昇降，カメラ監視）ができること。	・原子炉建屋（非管理区域）にて遠隔操作ロボットを操作して，基本動作（走行，階段昇降，カメラ監視）ができることを確認する。	
オフサイトセンター要員派遣訓練	○オフサイトセンタープラントチームへの要員派遣	○統合原子力防災NWのTV会議システム及び通報文による情報収集並びに事業者ブースとの連携によりプラント状況の把握ができること。	・プラントチームにてプラント状況を整理し，プラントチーム長（模擬者）への説明，質疑応答の対応ができることを確認する。	

2. 原子力部（本店）各訓練項目の内容

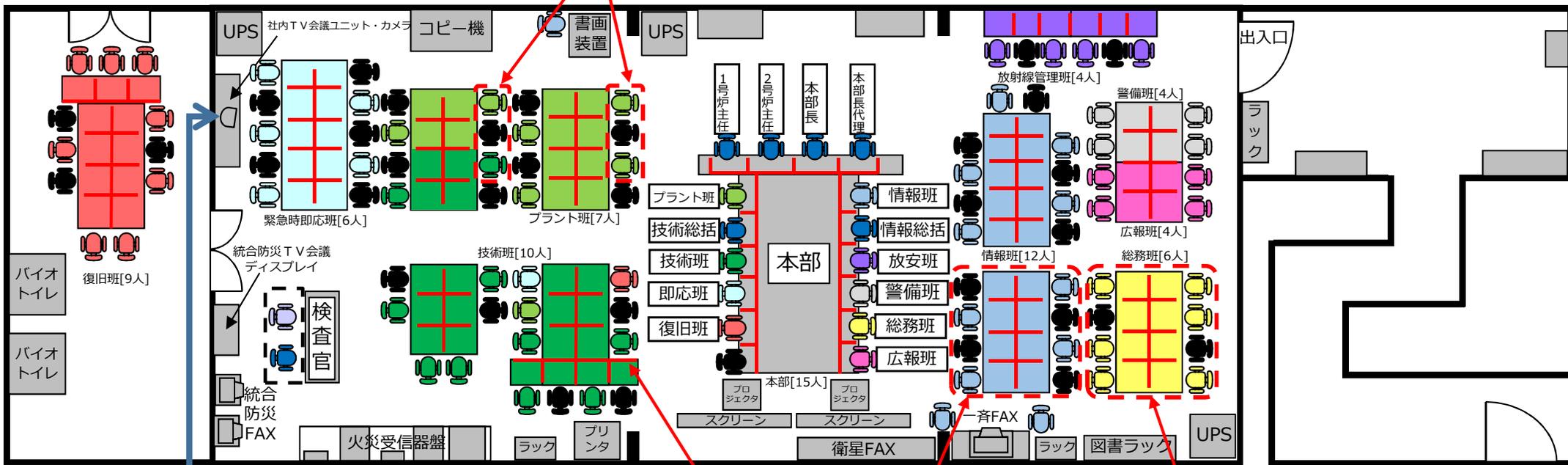
訓練項目	訓練内容	達成目標	主な検証項目	備考
緊急時演習（総合訓練）	○発電所支援に係る活動を原子力部（高浜本店）にて実施	○定められた活動（あるべき姿）が実施できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・定められた活動（あるべき姿）が実施できることを確認する。 ・社内TV会議システムへの接続が実施できることを確認する。 ・統合原子力防災ネットワークTV会議システムからの接続要求に回答できることを確認する。 ・必要な連絡先に事象発生時の連絡が抜けなく実施できることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練目的④⑦ ・訓練目的④
	○事象発生後、速やかに本部を立ち上げ、発電所の活動を支援	○少人数により本部の立ち上げができること。		
	○原子力本部（志賀町）と本店（富山市）との適切な情報共有の実施	○原子力本部（志賀町）と本店（富山市）間で適切な情報共有ができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力本部（志賀町）と本店（富山市）との間で、社長が出席するオンラインブリーフィングが開催され、情報連絡が富山の各機能班からなされることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練目的⑤
	○ERCプラント班へ情報を提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ERCプラント班に対して、情報共有システム、COP、ホットライン等の活用によりEAL、プラント状況、対応戦略等の必要な情報をわかりやすく適宜報告できること。 ○ERCプラント班からの質問に対して、発電所または即応センター内から情報を集め、回答できること。 ○ERC対応ブース内の通信機器の操作が適切に実施できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度訓練の課題が改善されていることを以下のとおり確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢事前に見込まれる戦略について、運転手順書を用いるなど積極的に説明できることを確認する。 ➢今後の戦略を説明する際に、各施策をバランスよく説明できることを確認する。 ➢SPDS画面（訓練時はシミュレータ画面）で主要パラメータが急変した場合は考えられる原因を速やかに説明するとともに、正確な原因を入手・整理した後、再度説明できることを確認する。 ・ERCプラント班からの質問を管理できていることを確認する。また、回答できていることを確認する。 ・機器の操作がスムーズに実施できていることを確認する。 ・音声不調が発生した場合、必要な対応が実施できることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練目的④⑥⑦
その他必要と認める訓練				
原子力事業所災害対策支援拠点訓練	○支援拠点を立ち上げ、即応センターと連携し発電所の支援を実施	○支援拠点を立ち上げ、即応センターと連携できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援拠点に通信機器（地上回線、衛星回線）をスムーズに設営できることを確認する。 ・支援拠点に設営した通信機器により連絡手段を確保できることを確認する。 ・昨年度訓練の課題が改善されていることを以下のとおり確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢作業箇所間でトランシーバーを用いて通信連絡ができることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部要素訓練
原子力緊急事態支援組織連携訓練	○原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請を実施	○原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）へ着信確認及びロボットの支援要請を実施できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への必要な連絡を実施していることを確認する。 ・原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請及びロボットの到着時間の確認を実施できることを確認する。 	

訓練項目	訓練内容	達成目標	主な検証項目	備考
記者会見対応訓練	○原子力部門の責任ある立場の者による模擬記者会見の実施	○模擬記者会見（わかりやすい広報対応含む）を実施できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定時間までに模擬記者会見の準備が実施できることを確認する。 ・記者役に対して、わかりやすい広報対応が実施できることを確認する。 ・記者からの質問に対して回答できることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬記者会見の記者役として社外プレーヤ（新聞記者、他原子力事業者広報担当等）が参加
	○ERC広報班と連動したプレス対応の実施	○ERC広報班と連動したプレス対応の実施できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ERC広報班と連動したプレス対応が実施できることを確認する。 	
	○模擬ホームページによる情報発信の実施	○時間内に模擬ホームページによる情報発信が実施できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に模擬ホームページに必要なプレス情報を登録できることを確認する。 	
原子力事業者支援連携訓練	○他の原子力事業者と連携し、発電所の支援を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○「事業者間協力協定」に基づく支援要請を実施できること。 ○他の原子力事業者と連携し、発電所支援について調整が実施できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「事業者間協力協定」に基づく支援要請を速やかに実施していることを確認する。 ・他の原子力事業者と連携し、発電所の支援を調整し、結果を即応センター内に周知できることを確認する。 	
オフサイトセンター連携訓練	○オフサイトセンターの事業者ブースを立ち上げ、即応センターと連携しオフサイトセンターの支援を実施	○オフサイトセンター事業者ブースを立ち上げ、即応センターと連携できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所から派遣されるプラントチームからの質疑応答の対応ができることを確認する。 	

以上

原則約 1 m確保

緊急時対策所



TV会議で接続

本店

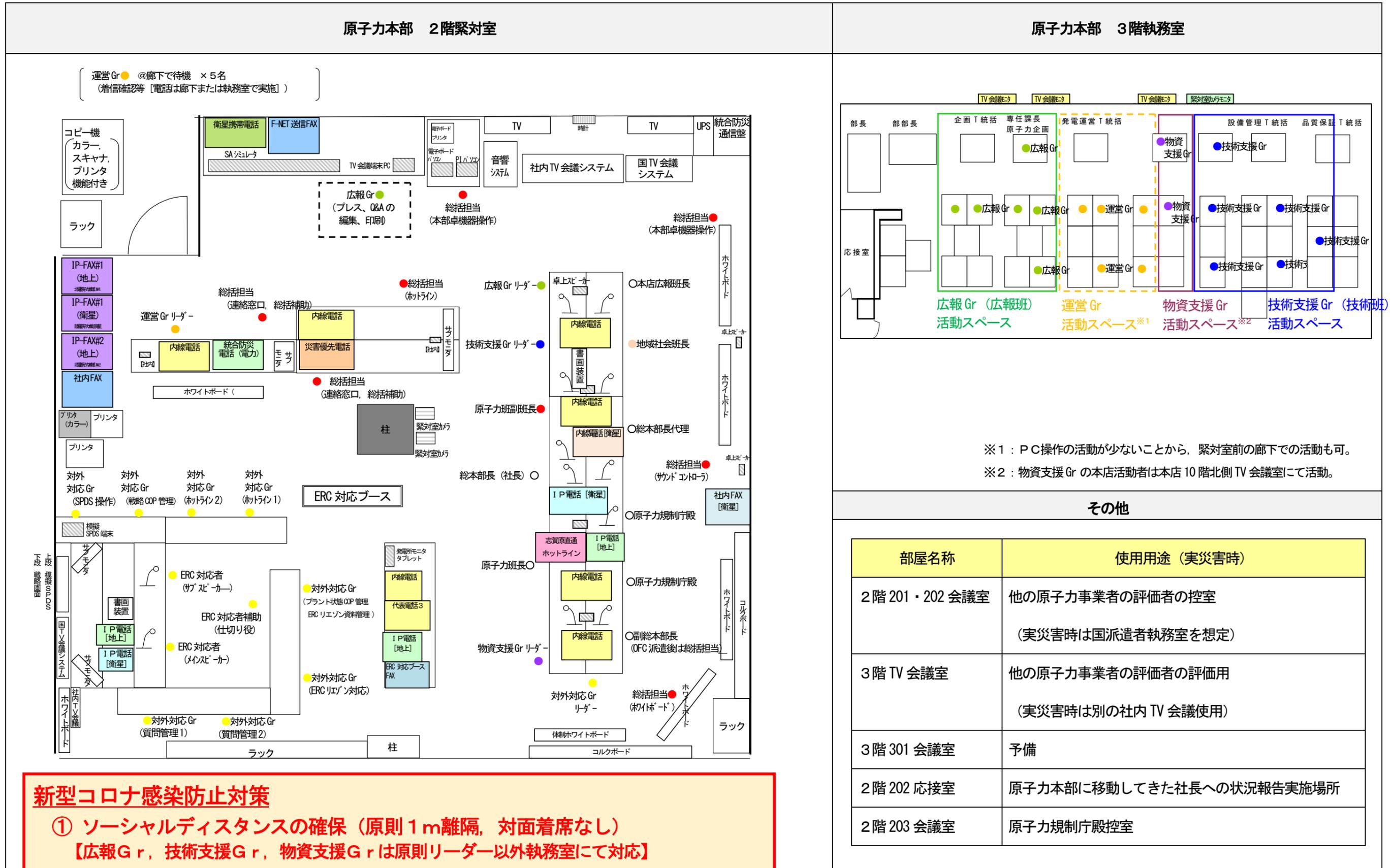
原子力本部
原子力施設事態即応センター

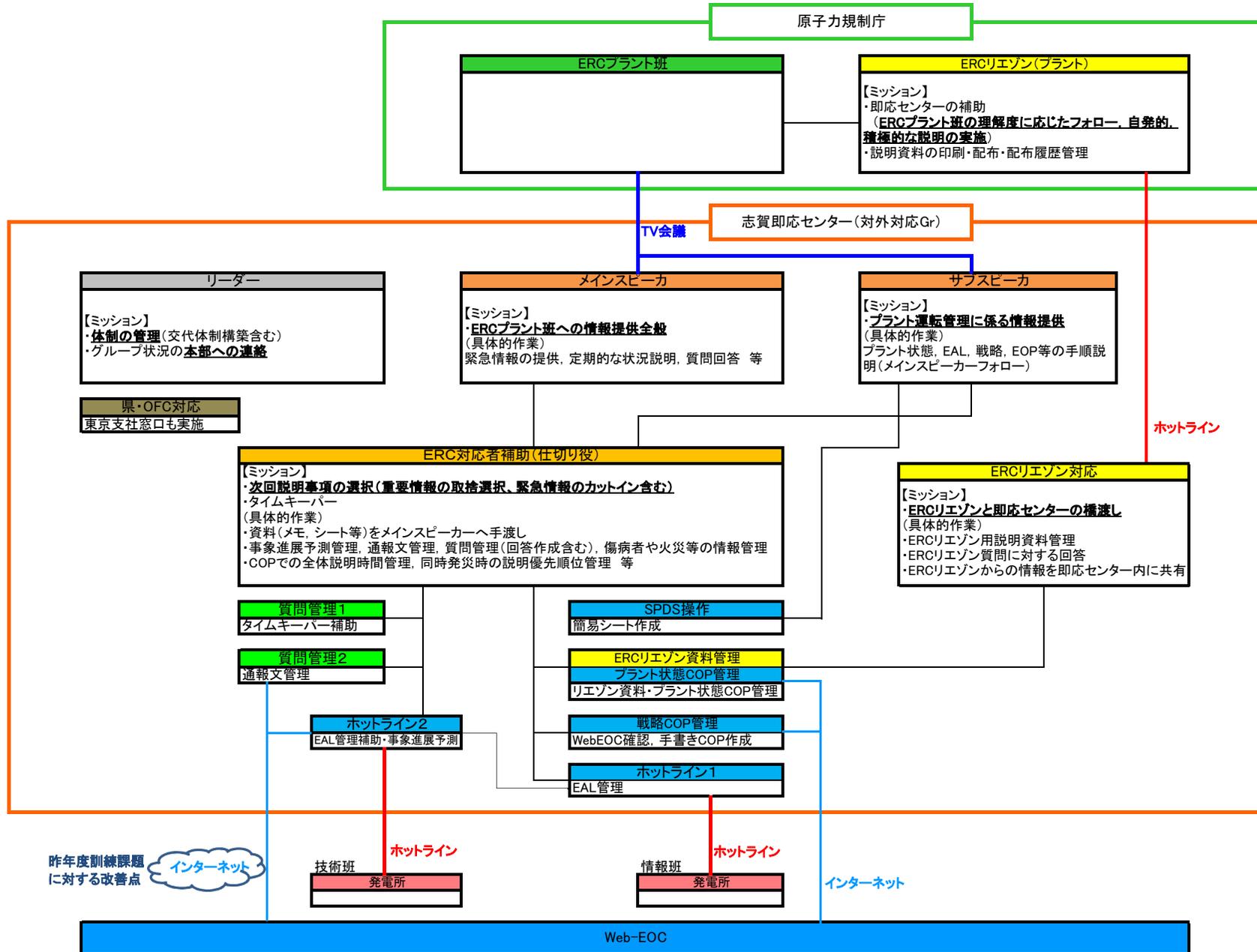
パーティションプレート

各班卓では正面に着席しない

正面に着席する場合や距離を確保できない場合は、物理遮へいを設置

即応センター レイアウト図





シナリオ情報を含むため非開示

DBA設備			SA設備(自主対策含む)							故障設備の復旧				
機能	設備	使用可否	機能	設備	使用可否	所要時間(H/M)*	準備開始時刻	準備完了予定時刻	使用開始時刻	備考	復旧対象設備	復旧開始時刻	復旧完了予定時刻	復旧完了時刻
交流電源	外部電源	50kV	常設代替交流電源設備(SA-GTG)	■	—	—	—	—	—	熱通光				
		275kV	設備電源設備	■	0:00					熱通光				
		66kV	大容量電源車	■	3:00					熱通光				
直流電源	非常用ディーゼル発電機(D/G)	A	所内常設代替直流電源設備(非常用A/常用A/B/SA用)	■	0:30									
		B	可搬型直流電源設備(高圧電源車+直流給電車)	■	2:10					熱通光				
		C	高圧系 代替高圧注水系(A-HPFL)	■	0:10									
		D	常設代替低圧注水系(A-LPFL)	■	0:10						ライン			
炉心冷却	給排水系	■	低圧系 可搬型代替低圧注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
	高圧炉心注水系(HPCF)	B	消火系(FP)	■	0:30									
	残熱除去系(RHR)	A	高圧営業ガス供給系	■	0:10									
	低圧系 [低圧注水モード]	B	代替SRV駆動装置	■	1(19)0:30									
	減圧系	C	可搬型蓄電池	■	1:30									
		D	常設代替注水系(A-LPFL)	■	0:10									
格納容器冷却	残熱除去系(RHR)	A	代替スライ	■	0:10									
	サブプレッションプール冷却	B	可搬型代替注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
	残熱除去系(RHR)	C	消火系(FP)	■	0:30									
	サブプレッションプール冷却	D	消火系(FP)	■	1:30									
原子炉補機冷却	原子炉補機冷却水系(RCW)	A	代替残熱除去系(A-RHR)	■	0:20									
		B	フィルタ付ベント装置(FDVS)	■	1(19)0:15									
		C	耐圧強化ベント	■	1(19)0:15									
		D	常設代替低圧注水系(A-LPFL)	■	0:10									
		E	可搬型代替注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
		F	消火系(FP)	■	0:30									
SFP冷却注水	燃料プール冷却浄化系(FPC)	A	可搬型代替注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
	残熱除去系(RHR)	B	消火系(FP)	■	0:30									
	燃料プール冷却モード	C	可搬型代替注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
	制御棒駆動水系(CRD)	A	消火系(FP)	■	0:30									
	ほう水注入系(SLC)	B	消火系(FP)	■	1:30									
		C	代替原子炉補機冷却系熱交換器ユニット(A-RWC Hxユニット)	■	6:40									
その他	海水移送ポンプ(ポンプ設備)	A	可搬型代替海水ポンプ	■	0:15									
		B	サブプレッションプール浄化系(SPCU)	■	0:15									
		C	可搬型代替注水系(MA-LPFL)	■	1:30									
		D	消火系(FP)	■	0:30									

設備	南側保管場所	自主・予備保管場所
大容量電源車	/1台	/2台
低圧電源車	/3台	—
高圧電源車	/3台	/3台
直流給電車	/1台	/3台
MA-LP	/4台	—
消防車	—	/3台
A-ROW Hxユニット	/1台	/1台
可搬型代替海水ポンプ	/1台	—
タンクローリ	/1台	/1台
ブルドーザ	/1台	—
ホイールローダ	—	/1台

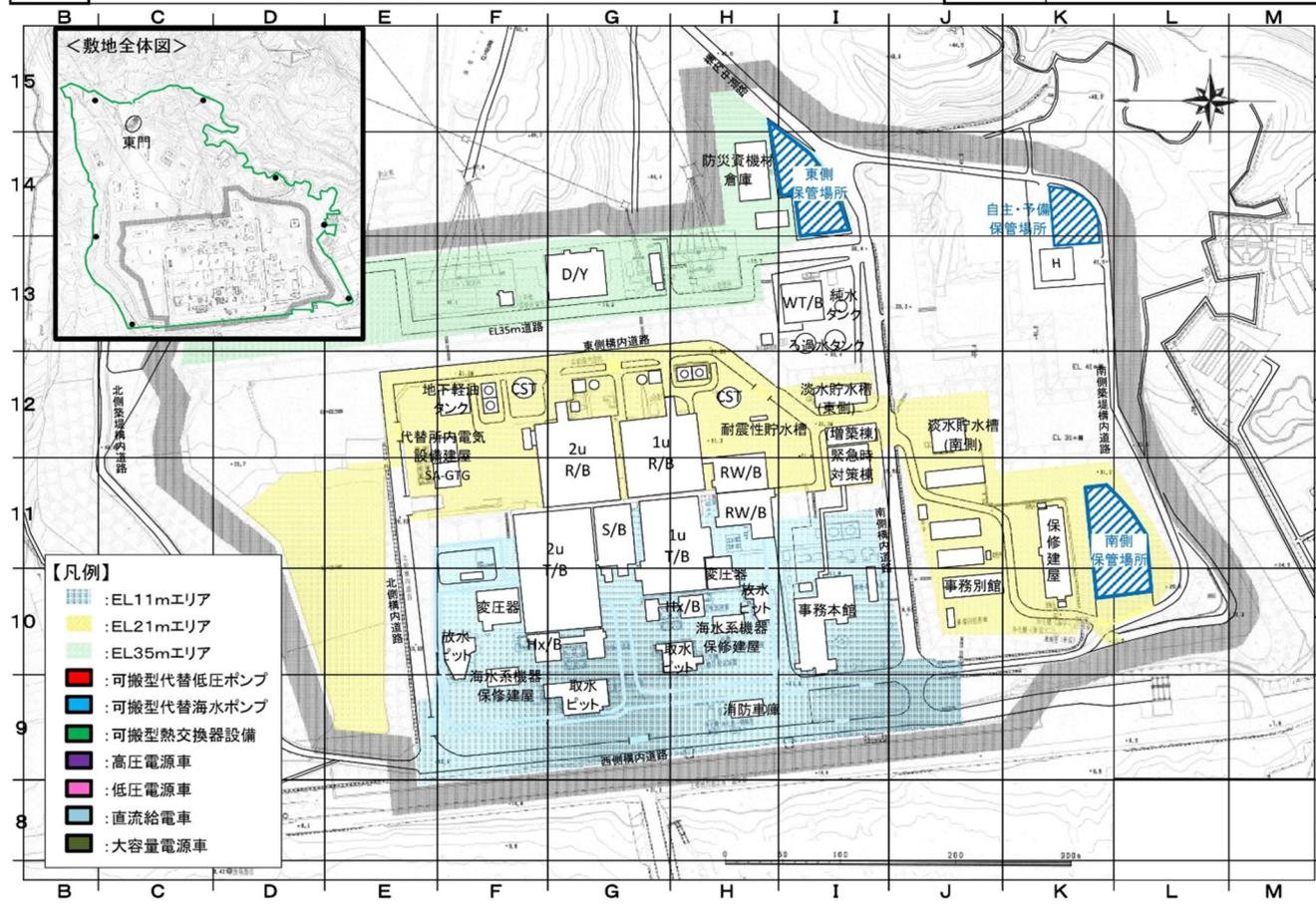
設備	南側保管場所	自主・予備保管場所
大容量電源車	/1台	/2台
低圧電源車	/3台	—
高圧電源車	/3台	/3台
直流給電車	/1台	/3台
MA-LP	/4台	—
消防車	—	/3台
A-ROW Hxユニット	/1台	/1台
可搬型代替海水ポンプ	/1台	—
タンクローリ	/1台	/1台
ブルドーザ	/1台	—
ホイールローダ	—	/1台

使用可否
 ○ 運転中
 ● 待機中(使用可能)
 ▲ 準備中
 ■ 準備中止(復旧後復旧予定)
 ■ サポート兵員確保欠による使用不可
 × 設備の故障で使用不可

SRV:
 ● 制御可
 ● 制御不可
 ● 制御不可
 ● 制御不可
 ● 制御不可

※ 所要時間は今回訓練における標準所要時間(仮設定)である
 (今後、成立性検証の実績時間を踏まえて随時更新予定)

COP③ 構内概況シート



COP④ EAL早見表

更新日時:

志賀1号機 EAL早見表 1/2(1u-COP④)【原子炉停止時(旧基準炉のEAL基準)】

警戒事態の事象 [AL]	原災法第10条通報基準 [SE] (施設敷地緊急事態に該当する事象)	原災法第15条報告基準 [GE] (全面緊急事態に該当する事象)
<p>SFP水位が燃料ラック上端から+4m上方に到達 (NWL-2, 867mm) (目盛板の場合NWL-2.5m位置)</p> <p>水位監視不能 → 24時間継続</p> <p>[AL31] 使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失のおそれ</p>	<p>SFP水位が燃料ラック上端から+2m上方に到達 (NWL-4, 867mm) (目盛板の場合NWL-4.5m位置)</p> <p>[SE31] 使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失</p>	<p>SFP水位が燃料ラック上端に到達 (NWL-6, 867mm) (目盛板の場合NWL-6.5m位置)</p> <p>[GE31] 使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失・放射線放出</p>
<p>志賀町において風速5m以上の地震</p> <p>志賀町沿岸を含む津波予報区において大津波警報</p> <p>オンサイト監視が警戒事態と判断 (固)</p> <p>役員又は役員兼代行が警戒事態と判断 (固)</p> <p>外的な事象による原子力施設への影響</p>	<p>外部事象により原子炉施設に影響を及ぼすおそれ</p> <p>敷地境界で5μSv/h相当</p> <p>[SE55] 防護措置の準備および一部実施が必要な事象発生</p>	<p>外部事象により原子炉施設に影響あり</p> <p>敷地境界で5μSv/h相当</p> <p>[GE55] 住民の避難を開始する必要がある事象発生</p>

空欄凡例: □ ...自動入力欄

更新日時:

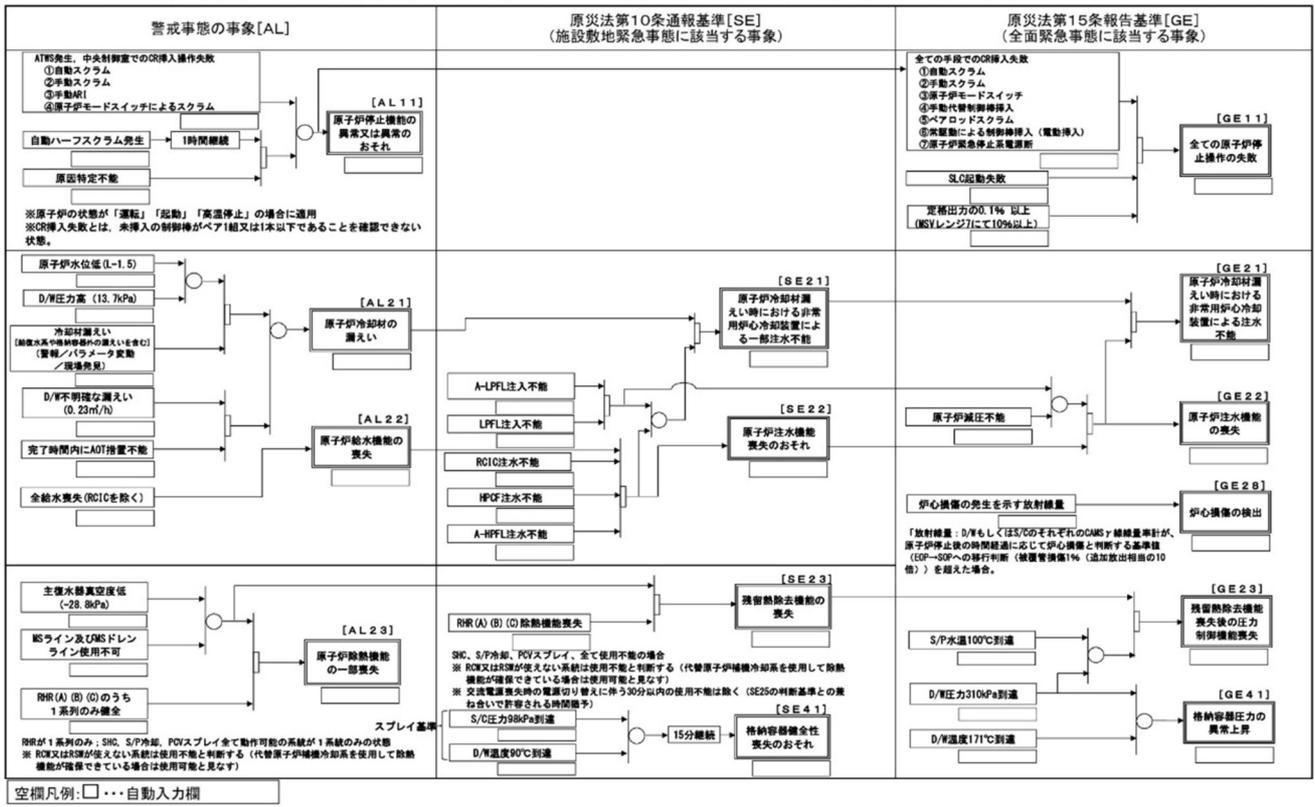
志賀1号機 EAL早見表 2/2(1u-COP④)【原子炉停止時(旧基準炉のEAL基準)】

警戒事態の事象 [AL]	原災法第10条通報基準 [SE] (施設敷地緊急事態に該当する事象)	原災法第15条報告基準 [GE] (全面緊急事態に該当する事象)
	<p>MPにおいて5μSv/h以上 (1箇所検出)</p> <p>[SE01] 敷地境界付近の放射線量の上昇</p> <p><small>【γ線が1μSv/h以上の場合は中性子線との合計線量で5μSv/h以上】 【5μSv/hはMP (モニタリングポスト) 5×10⁶h/hに相当】 【放射線モニタ (スタック、GEM-D型、添加エリア放射モニタ) に異常がない場合は除外】</small></p>	<p>MPにおいて5μSv/h以上 (2箇所検出)</p> <p>[GE01] 敷地境界付近の放射線量の上昇</p> <p><small>【5μSv/hはMP (モニタリングポスト) ×10⁶h/hに相当】</small></p>
	<p>排気筒モニタ 440cps → 10分継続</p> <p>放水放射線モニタ 5,200cps → 10分継続</p> <p>[SE02: 気体] 通常放出経路での気体放射性物質の放出</p> <p>[SE03: 液体] 通常放出経路での液体放射性物質の放出</p>	<p>排気筒モニタ 440cps → 10分継続</p> <p>放水放射線モニタ 5,200cps → 10分継続</p> <p>[GE02: 気体] 通常放出経路での気体放射性物質の放出</p> <p>[GE03: 液体] 通常放出経路での液体放射性物質の放出</p>
	<p>管理区域境界空間放射線量50μSv/h以上 → 10分継続</p> <p>火災、爆発その他これらに類する事象の発生</p> <p>空気中の放射性物質の濃度が5μSv/h相当</p> <p>[SE04: 放射線] 火災爆発等による管理区域域外での放射線の放出</p> <p>[SE05: 放射性物質] 火災爆発等による管理区域域外での放射性物質の放出</p>	<p>管理区域境界空間放射線量50μSv/h以上 → 10分継続</p> <p>火災、爆発その他これらに類する事象の発生</p> <p>空気中の放射性物質の濃度が500μSv/h相当</p> <p>[GE04: 放射線] 火災爆発等による管理区域域外での放射線の異常放出</p> <p>[GE05: 放射性物質] 火災爆発等による管理区域域外での放射性物質の異常放出</p>
	<p>原子炉外で臨界状態の蓋然性が高い状態</p> <p>[SE06] 施設内 (原子炉外) 臨界事故のおそれ</p>	<p>原子炉外で臨界状態が発生</p> <p>[GE06] 施設内 (原子炉外) での臨界事故</p>
	<p>運搬容器から1mの距離で放射線量が100μSv/h以上</p> <p>運搬容器からの放射性物質の漏えい発生の高確率性</p> <p>[XSE61: 放射線] 事業所外運搬での放射線の放出</p> <p>[XSE62: 放射性物質] 事業所外運搬での放射性物質の放出</p>	<p>運搬容器から1mの距離で放射線量が10mSv/h以上</p> <p>運搬容器から一定以上の放射性物質の漏えい発生の高確率性 (一定以上: 1m離れた地点で30分間の被ばくが50mSv/hとなる放射線量)</p> <p>[XGE61: 放射線] 事業所外運搬での放射線の放出</p> <p>[XGE62: 放射性物質] 事業所外運搬での放射性物質の放出</p>

空欄凡例: □ ...自動入力欄

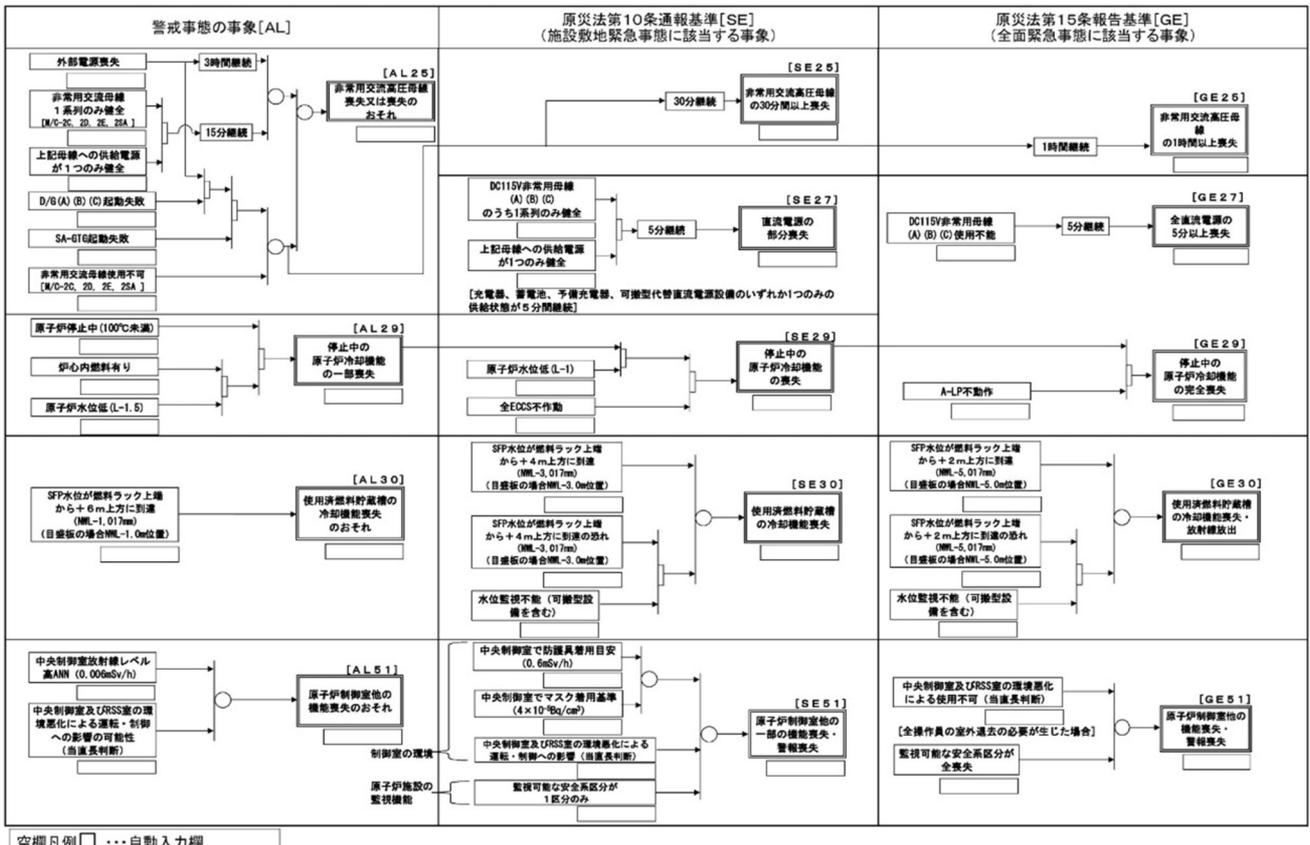
更新日時:

志賀2号機 EAL早見表 1/5(2u-COP④) 【原子炉運転時(規制基準適合に係る使用前検査終了後)に適用】



更新日時:

志賀2号機 EAL早見表 2/5(2u-COP④) 【原子炉運転時(規制基準適合に係る使用前検査終了後)に適用】



COP⑤ 戦略検討

訓練		2u-COP⑤(戦略検討)				更新日時	現在																																											
原子炉 (炉心冷却)	<p>現状</p> <p>待機① → MPa 炉圧 水位 m³/h 注水流速</p> <p>待機② → m³/h</p> <p>予測: 注水停止, 燃料露出, 炉心損傷, RPV破損</p> <p>実績</p> <p>説明</p>	<p>目的</p> <p>達成目標</p> <p>崩壊熱相当注水流速 m³/h</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>台数</th> <th>位置づけ</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>目標達成 可否</th> <th>準備</th> <th>電源</th> <th>ヒートシンク</th> <th>水源/吸込</th> <th>注水ライン</th> <th>注水能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>説明</p>					主要機器	台数	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力	①										m ³ /h	②										m ³ /h	③										m ³ /h
	主要機器	台数	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力																																							
	①										m ³ /h																																							
	②										m ³ /h																																							
③										m ³ /h																																								
格納容器	<p>現状</p> <p>待機① → kPa 圧力(注水/炉内)</p> <p>待機② → kPa</p> <p>予測: スプレイ(98kPa), 1Pd(310kPa), 2Pd(820kPa), PCV破損</p> <p>実績</p> <p>説明</p>	<p>目的</p> <p>達成目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>台数</th> <th>位置づけ</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>目標達成 可否</th> <th>準備</th> <th>電源</th> <th>ヒートシンク</th> <th>水源/吸込</th> <th>注水ライン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>説明</p>					主要機器	台数	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	①										②										③													
	主要機器	台数	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン																																								
	①																																																	
	②																																																	
③																																																		
電源	<p>現状</p> <p>C系母線, D系母線, 待機①</p> <p>E系母線, SA母線, 待機②</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>電源</th> <th>給電対象母線</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>準備</th> <th>関連作業</th> <th>定格電気出力</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					電源	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明	①					kVA		②					kVA																								
	電源	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明																																											
①					kVA																																													
②					kVA																																													
その他	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>主要機器</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>準備</th> <th>水運等</th> <th>関連作業</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分類	主要機器	完了予想 着手時間	準備	水運等	関連作業	説明	①							②							<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>主要機器</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>準備</th> <th>水運等</th> <th>関連作業</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					分類	主要機器	完了予想 着手時間	準備	水運等	関連作業	説明	③							④								
	分類	主要機器	完了予想 着手時間	準備	水運等	関連作業	説明																																											
①																																																		
②																																																		
分類	主要機器	完了予想 着手時間	準備	水運等	関連作業	説明																																												
③																																																		
④																																																		

訓練		2u1u SFP-COP⑤(戦略検討)				更新日時																																								
志賀2号機	<p>使用済燃料プール</p> <p>現状</p> <p>待機① → °C 温度注水/炉内</p> <p>待機② → °C</p> <p>予測: 除熱停止, 水温100°C, TAF+4m, SFP周辺予測線量</p> <p>実績</p> <p>説明</p>	<p>目的</p> <p>達成目標</p> <p>崩壊熱相当注水流速 m³/h</p> <p>漏えい量 m³/h</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>位置づけ</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>目標達成 可否</th> <th>準備</th> <th>電源</th> <th>ヒートシンク</th> <th>水源/吸込</th> <th>注水ライン</th> <th>注水能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>説明</p>					主要機器	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力	①									m ³ /h	②									m ³ /h	③									m ³ /h
	主要機器	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力																																				
	①									m ³ /h																																				
	②									m ³ /h																																				
③									m ³ /h																																					
電源	<p>現状</p> <p>C系母線, D系母線, 待機①</p> <p>E系母線, SA母線, 待機②</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>給電対象母線</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>準備</th> <th>関連作業</th> <th>定格電気出力</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					主要機器	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明	①					kVA		②					kVA																				
	主要機器	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明																																							
①					kVA																																									
②					kVA																																									
志賀1号機	<p>使用済燃料プール</p> <p>現状</p> <p>待機① → °C 温度注水/炉内</p> <p>待機② → °C</p> <p>予測: 除熱停止, 水温100°C, TAF+4m, SFP周辺予測線量</p> <p>実績</p> <p>説明</p>	<p>目的</p> <p>達成目標</p> <p>崩壊熱相当注水流速 m³/h</p> <p>漏えい量 m³/h</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>位置づけ</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>目標達成 可否</th> <th>準備</th> <th>電源</th> <th>ヒートシンク</th> <th>水源/吸込</th> <th>注水ライン</th> <th>注水能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>説明</p>					主要機器	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力	①									m ³ /h	②									m ³ /h	③									m ³ /h
	主要機器	位置づけ	完了予想 着手時間	目標達成 可否	準備	電源	ヒートシンク	水源/吸込	注水ライン	注水能力																																				
	①									m ³ /h																																				
	②									m ³ /h																																				
③									m ³ /h																																					
電源	<p>現状</p> <p>C系母線, D系母線, 待機①</p> <p>H系母線, 待機②</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要機器</th> <th>給電対象母線</th> <th>完了予想 着手時間</th> <th>準備</th> <th>関連作業</th> <th>定格電気出力</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kVA</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					主要機器	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明	①					kVA		②					kVA																				
	主要機器	給電対象母線	完了予想 着手時間	準備	関連作業	定格電気出力	説明																																							
①					kVA																																									
②					kVA																																									

COP⑥ プラント予測

		2u1u-COP⑥ (プラント予測)				
志賀2号機	(炉心冷却) 原子炉	評価日時	年	月	日	時 分
		燃料露出	炉心損傷	RPV破損		
	説明					
	圧力	評価日時	年	月	日	時 分
		スプレィ(98kPa)	1Pd (310kPa)	2Pd (620kPa)		
説明						
格納	空間温度	評価日時	年	月	日	時 分
		空間温度103℃	空間温度171℃	空間温度190℃		
説明						
容器	S/P水温	評価日時	年	月	日	時 分
		S/P水温70℃	S/P水温100℃			
説明						
S/P水位	S/P水位	評価日時	年	月	日	時 分
		S/P水位+5.95m (真空破壊弁-1m)				
説明						
志賀1号機	蒸発 使用済燃料プール	評価日時	年	月	日	時 分
		水温100℃	ラック上端+6m	ラック上端+4m		
	説明					
	漏えい	評価日時	年	月	日	時 分
		ラック上端+6m	ラック上端+4m			
説明						
蒸発 使用済燃料プール	蒸発	評価日時	年	月	日	時 分
		水温100℃	ラック上端+4m	ラック上端+2m		
説明						
漏えい	漏えい	評価日時	年	月	日	時 分
		ラック上端+4m	ラック上端+2m			
説明						

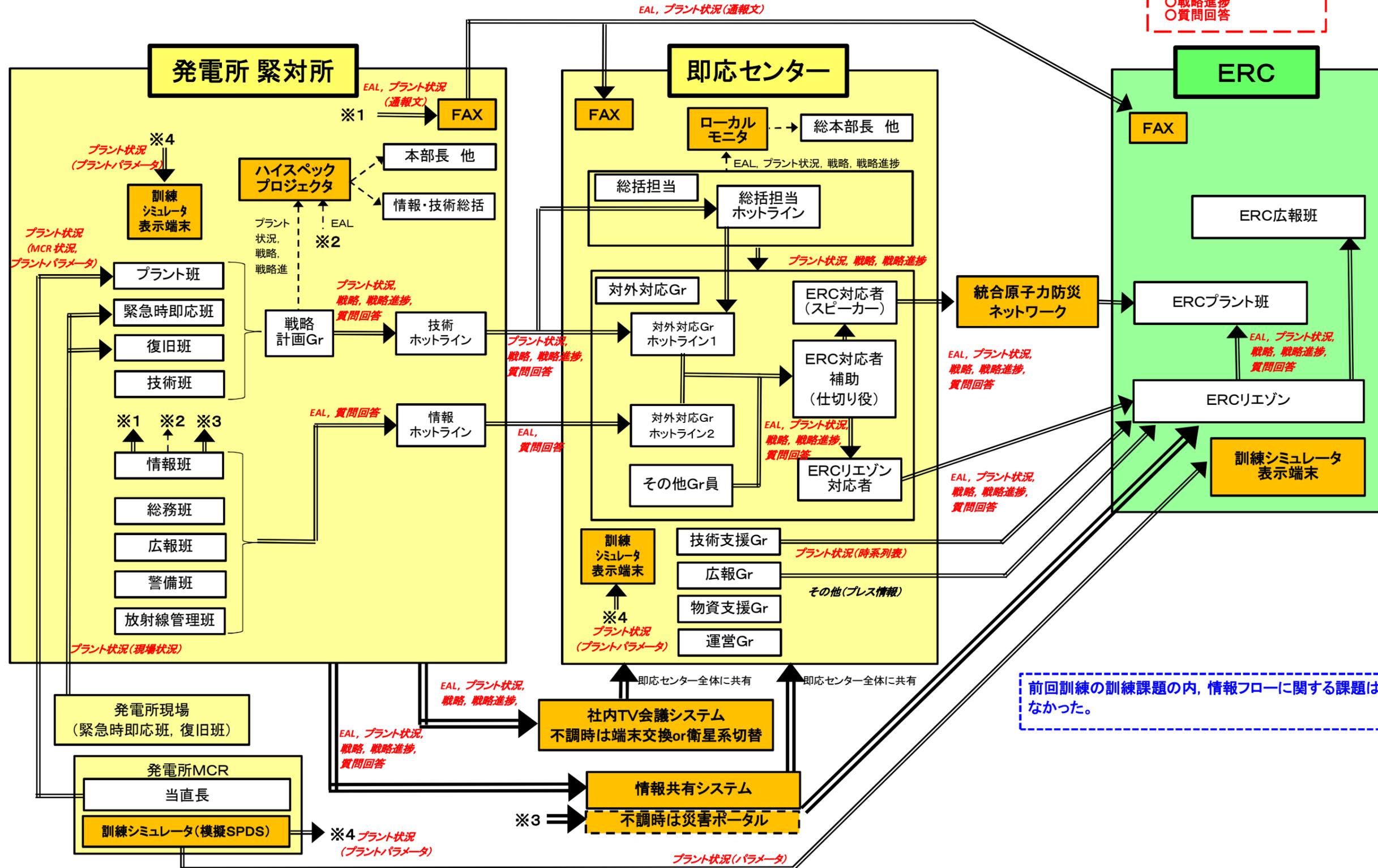
E R C 書架内の資料整備状況 (資料一覧)

資料名		備付根拠
1	発電所周辺地図	防災業務計画
2	発電所周辺航空写真パネル	防災業務計画
3	発電所気象観測データ	防災業務計画
4	発電所周辺環境モニタリング関連データ	防災業務計画
5	発電所周辺人口関連データ	防災業務計画
6	主要系統模式図	防災業務計画
7	原子炉設置許可申請書	防災業務計画 (O F C 備付)
8	系統図及び発電所施設の配置図	防災業務計画 (O F C 備付)
9	プラント関連プロセス及び放射線計測配置図	防災業務計画
10	プラント主要設備概要	防災業務計画
11	原子炉安全保護系シーケンス	防災業務計画
12	規定類	防災業務計画
	原子炉施設保安規定	防災業務計画 (O F C 備付)
	原子力事業者防災業務計画	防災業務計画 (O F C 備付)
	事故時運転操作要領	防災業務計画
13	原子力防災に関する概要資料 ・ E R C 備付資料 (未適合炉編)	—
14	原子力防災に関する概要資料【訓練用】 ・ E R C 備付資料 (I 編 : 2 号適合炉編, II 編 : 1 号未適合炉編)	— (訓練時のみ使用)

1. ERCへの情報の流れ(全体)

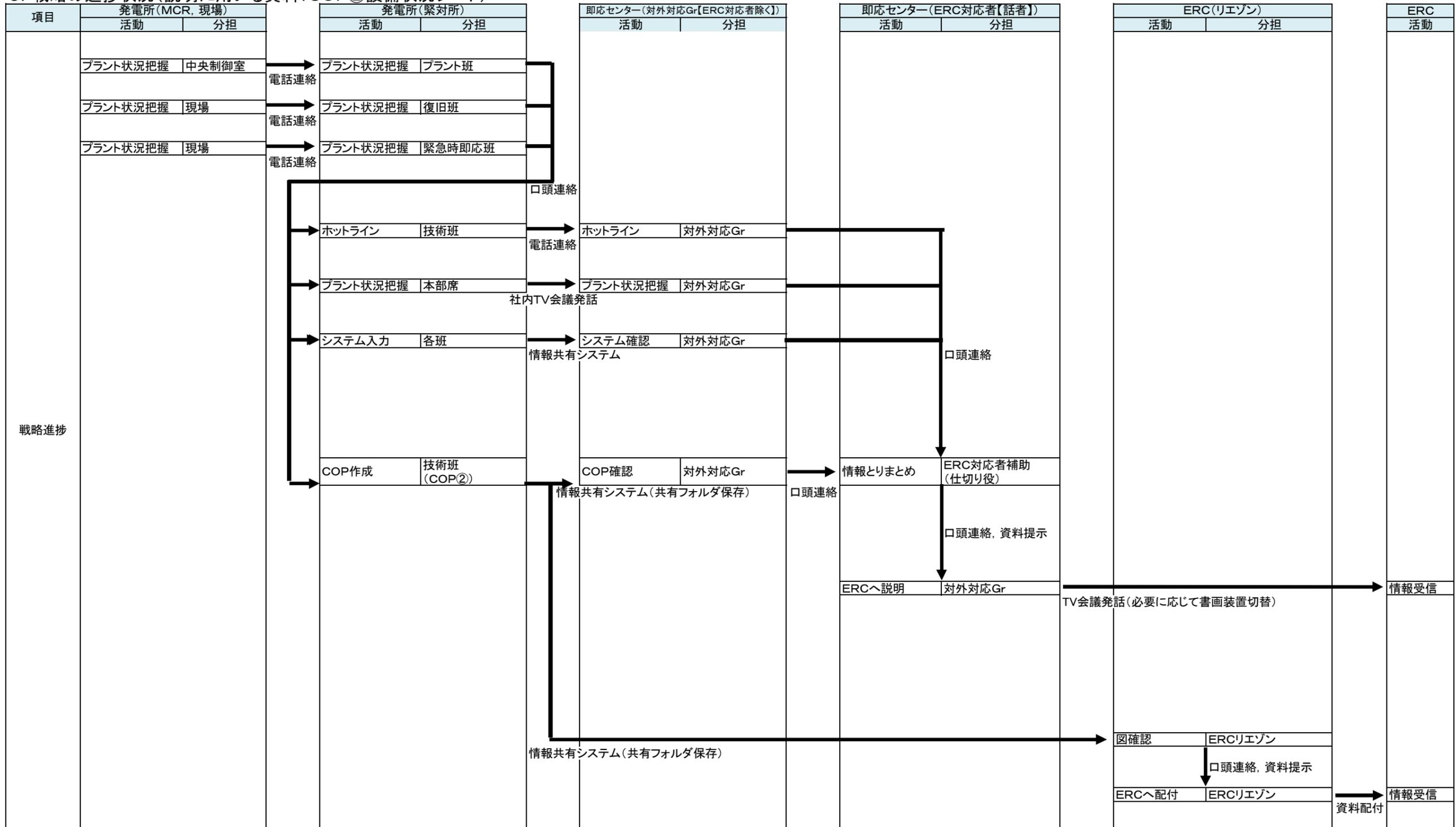
青文字は改善事項

赤文字は5つの情報
 ○EAL
 ○プラント状況
 ○戦略
 ○戦略進捗
 ○質問回答



前回訓練の訓練課題の内、情報フローに関する課題はなかった。

5. 戦略の進捗状況(説明に用いる資料:COP②設備状況シート)



前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

No	問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
①	戦略に係る一部のプラント操作において、操作の予告や実施状況を適切なタイミングでERCプラント班に情報共有できないときがあった。	<p>今後プラント状況が悪化した場合に想定される戦略についての説明が少なかった。また、COP5（戦略）を使った説明の際、最優先の戦略の説明に注力し、その他の戦略の説明が疎かになった。</p> <p>原因が不明確なパラメータ変動の説明は、ある程度情報が整理されてから、行えばよいと考えていた。</p>	<p>プラント状況が悪化した場合に備え、事前に見込まれる戦略については運転手順書を用いるなど積極的に説明する。また、COPを用いて今後の戦略を説明する際は、各施策（原子炉注水、格納容器除熱、電源及び使用済燃料貯蔵プール注水等）をバランス良く説明することとし、その旨マニュアルに明記する。</p> <p>SPDS画面で主要パラメータ（原子炉：水位・圧力、格納容器：圧力・温度）に急激な変化が見られた場合は、ERC対応ブース内で考えられる原因をERCに速やかに説明する。その上で正確な原因は発電所からの情報をERC対応ブース内で整理した後、説明することとし、その旨マニュアルに明記する。</p>	<p>【検証計画】 2021年1月22日の事業者防災訓練にて、改善策が定着していることを検証する。</p> <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオで主要パラメータが急激に変化する状況を設定する。 ・社内の評価者及び他電力からの評価者がチェックシートにより以下の観点で説明ができているかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢戦略をバランスよく説明 ➢パラメータ変化時に考えられる原因を速やかに説明 ➢パラメータ変化の正確な原因を整理し、再説明

No	問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
①	続き	<p>即応センターのERC対応ブースは、主に「(a) 社内TV会議」、 「(b) 情報共有システム」及び「(c) ホットライン」の3つの多様なチャンネルで情報収集を行っていたが、以下の3つの状況が重なったことで、一部のプラント操作についてタイムリーに情報収集ができず、ERCプラント班への報告が遅れた。</p> <p>(a) 社内TV会議 社内TV会議の発電所発話において、COPに記載はされているものの、発話のないプラント操作があった。</p> <p>(b) 情報共有システム 即応センター内のERC対応ブースは、重要なパラメータ変化については情報共有システムからログの収集・記録をしていたが、重要なパラメータ変動を起こすプラント操作のログを見落とすことがあった。</p> <p>(c) ホットライン 即応センター内のERC対応ブースは、発電所側のホットラインの要員から実施済みの操作が未実施であるとの情報を得たことで、不正確な情報を正しい（実際には実施済みの操作を未実施）と誤認することがあった。</p>	<p>ERC対応ブースについて、社内TV会議システムや情報共有システムからの情報受信能力を強化（SPDSでパラメータ変化を迅速に把握し、パラメータ変化の原因となる操作の情報を漏れなく確認）するよう、Gr員の任務及びERC対応ブース内のインフラを見直す（ホットライン用のパソコンを配備する）。なお、TV会議発話からの聞き取りやホットラインによる情報収集は口頭のみであるため、情報輻輳時の一定のエラーはあるものと考え、その他の情報収集チャンネルを含めた複合的な情報受信能力を強化する方針とする。</p>	同上

No	問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
②	<p>通報文の記載において、以下のとおり一部必要情報を把握しづらい箇所があった。</p> <p>a. 原災法第10条通報様式の「その他特定事象の把握に参考となる情報」欄には、「別紙参照」と記載し、別紙にて事象発生以降の全ての時系列情報に新たな情報を追記する形で記載していたが、必要情報が把握しづらかった。また、本紙と別紙の2枚でFAX送受信するため、速達性の観点から改善の余地があった。</p> <p>b. 原災法第25条報告様式の「発生事象と対応の概要」欄は、前回報</p>	<p>a. 原災法第10条通報様式には、発生した特定事象の判断根拠となる情報（必要情報）に加え、補足情報等も極力記載する方がよいと考えていた。また、通報文の作成時間短縮のため、本紙と別紙の作成者を各々配置し、都度2枚の通報文を作成する運用としていたが、通報文のFAX送受信に時間がかかることまで考慮できていなかった。</p>	<p>a. 原災法第10条通報様式には、発生した特定事象の判断根拠となる情報（必要情報）のみ記載し、速やかに通報する。また、極力1枚の通報文にまとめて通報することとし、その旨マニュアルに明記する。</p>	<p>【検証計画】</p> <p>2021年1月22日の事業者防災訓練にて、改善策が定着していることを検証する。</p> <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訓練中に作成した通報文の記載内容が、発生した判断根拠となる情報のみ記載されており、極力1枚にまとめる考慮がなされていたかを訓練後に確認する。
		<p>b. 原災法第25条報告様式には、事象の全体像（一連の流れ）を把握する観点から、前回報の情報も記載する方がよいと考えていた。</p>	<p>b. 原災法第25条報告様式には、新規の報告内容のみ記載することとし、その旨マニュアルに明記する。</p>	<p>【検証計画】</p> <p>2021年1月22日の事業者防災訓練にて、改善策が定着していることを検証する。</p> <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訓練中に作成した報告文の記載内容が新規の報告内容のみとなっていたかを訓練後に確認する。

No	問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
	<p>告事項や第10条事象発生以前の情報が全て列記されており、必要情報を把握しづらかった。</p> <p>c. 応急措置の報告に時間を要していると捉えられる場面があった。</p>	<p>c. 原災法第25条報告様式を用いた応急措置の報告は、速やかに実施することを意識してはいたが、戦略立案、準備開始、準備完了のどの時点で報告するのか明確にしていなかった。</p>	<p>c. 原災法第25条報告様式を用いた応急措置の報告は、発電所本部で戦略立案、準備開始、準備完了の情報が共有されてから30分以内を目途に行うこととし、その旨マニュアルに明記する。</p>	<p>【検証計画】</p> <p>2021年1月22日の事業者防災訓練にて、改善策が定着していることを検証する。</p> <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訓練中に実施した報告が、発電所本部で戦略立案、準備開始、準備完了の情報が共有されてから30分以内を目途に実施されていたかを訓練後に確認する。
③	<p>支援拠点内の距離が離れた作業箇所間（汚染検査エリア・除染エリアと連絡員詰所）での情報伝達を行った際に、予想外に時間を要した。</p>	<p>作業箇所間の連絡手段として人を遣わせて情報伝達を行った。</p>	<p>人を遣わせなくても良いように、支援拠点内で使用するトランシーバーを配備する。</p> <p>毎年行う通信機器設営訓練にて配備したトランシーバーを用いた訓練も合わせて行う。</p>	<p>【検証計画】</p> <p>2021年1月21日の設営訓練及び通信確認にて、改善策が有効であることを検証する。</p> <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業箇所間でトランシーバーを用いて通信連絡ができることを確認する。
要素訓練		<p>支援拠点内の連絡用通信機器の必要性を認識できず、準備していなかった。</p>		
訓練		<p>過去の訓練では作業箇所毎に別の日に要素訓練をしていたため、情報伝達の必要性に気付かなかった。</p>		

以上

2020 年度の具体的な訓練対応スケジュール

		実施事項	時期																		備考
			2019 年度			2020 年度												2021 年度			
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	
CHECK	訓練報告	○2019 年度訓練報告書				▼															※1 ・訓練実績等を踏まえた課題の抽出 ・前回中期訓練計画見直し結果の検証
ACTION	改善実施	○改善対策の具体策	[Blue bar from April to December]																		
		・様式・マニュアルの改訂			▼	▼	▼					▼	▼	▽	▽						
		・体制の変更										▼									
		・他社事例反映												▽							
		・変更内容の周知										▼	▼	▽	▽						
		・ドリル・要素訓練										▼	▼	▽	▽						
		○中期計画見直し (検討項目：※1)					▼														
		○事業者防災業務計画見直し検討開始 (検討項目：※2)				▼	[Blue arrow from April to September]				▼21 施行										
PLAN	訓練計画	○2020 年度訓練計画策定					▼	▼													
DO	訓練実施	○2020 年度訓練実施													▽						
CHECK	訓練評価	○訓練評価																			
		・社内自己評価														[Blue box]					
		・対策の有効性評価														[Blue box]					
		・パンチリスト対応														[Blue box]					
		・課題の抽出、原因分析、対策検討														[Blue box]					
		・対策の方針決定																▽			
		○2020 年度訓練報告書															▽				
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化																	[Blue box]		
		○中期計画見直し検討																	▽		
		○事業者防災業務計画見直し検討開始																	(未定)		
PLAN	訓練計画	2021 年度訓練計画策定																▽			
DO	訓練実施	2021 年度訓練実施																(未定)			

2020年12月15日

北陸電力株式会社

志賀原子力防災訓練（2021年1月22日）関係名簿

1. 訓練コントローラー（即応センター）

No.	所属	氏名	連絡先
個人情報を含むため非開示			

2. ERC対応者（即応センター）

No.	所属	氏名	連絡先
個人情報を含むため非開示			

3. 参考（ERCリエゾンの連絡先）

No.	所属	氏名	連絡先
個人情報を含むため非開示			

以上

新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止対策として以下を実施する。

1. 各活動拠点の共通対策

- ・ マスク常時着用，**常時換気**の実施
- ・ 建物入館入口付近または会議室入口近傍に**アルコール消毒液の配備**
- ・ 建物入館入口または会議室入室時に**非接触型体温計による検温実施**
- ・ **要員間の離隔距離は原則 1 m以上確保**
- ・ 離隔距離の確保が困難，対面着座が必要な場合は**ビニールカーテン等の物理遮へいを設置**

2. 各活動拠点ごとの対策

(1) 原子力本部（即応センター）

- ・ 2 部屋での活動（緊急時対策室への入室する要員を厳選）
- ・ 訓練プレイヤーの 1 割削減

(2) 発電所対策本部

- ・ 訓練上必要となる**最小人数**で実施